

和歌山県工業技術センターの紹介

①和歌山県工業技術センターの歴史・組織図

②和歌山県工業技術センターのミッション、強化活動等

工業技術センターのミッション 及び 3つの強化活動

○工業技術センターの基本ミッション

<課題解決型企業支援>

県内中小企業の方々が今困っている事を解決することのお手伝い

<先行型技術開発支援>

県内中小企業の方々が将来発展するために必要な技術的課題の解決をお手伝い

工業技術センター 3つの強化活動

開かれたセンターへの強化

オープンラボ構想の実現
技術展示の強化
情報発信の強化

先行的技術開発の強化

今後5～10年先の成長を
実現するための競争力の維
持及び強化に必要なコア技
術の育成

外部機関との連携強化

県内外の研究機関や大学等
との連携を通じ、先端的な
技術シーズ移転の機能を強
化

開かれたセンターへの強化（オープンラボの整備）

はじめてみよう！一歩先の「ものづくり」

- 企業支援ツールを集約し、基礎開発から実用化支援まで幅広く対応可能なスペースを整備
- 人材育成にも活用



ケミカルスマート ものづくりラボ

化学物質の反応の予測や材料設計を「計算化学システム」により効率的に行うことができるラボ



フード プロセッシングラボ

加工食品の試作開発、試作品の分析・評価などを実施可能なラボ



3Dスマート ものづくりラボ

3D関連機器を集約し、デジタルデータを活用した「ものづくり」を実施できるラボ



レザー＆ テキスタイルラボ

加飾、染色関連機器や、繊維や糸に関する関連機器を集約すると共に、関連する文献等をく取り揃えたラボ

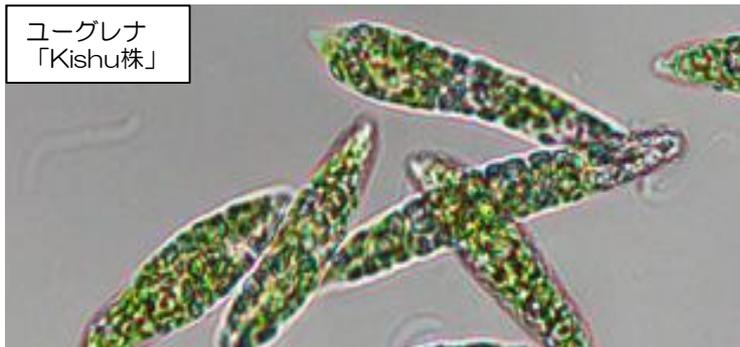


自動化促進ラボ

生産工程の自動化の検討や、IoTシステム導入に係る事前検討が可能なラボ

先行的技術開発の強化

<成果1>



県内から、通常のユーグレナ（和名：ミドリムシ）よりも**増殖速度が早い**新規株「**Kishu株**」を発見し、特許登録！

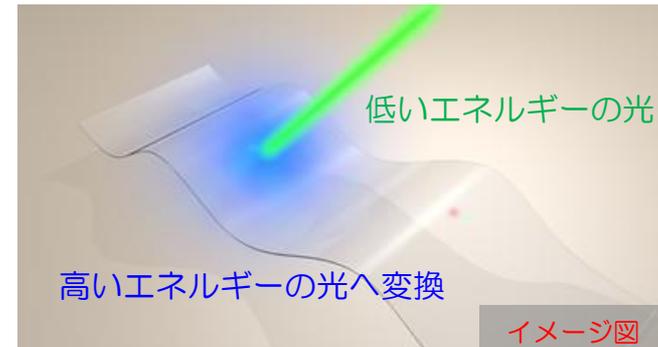


(株) Bio Labo 研究所（兵庫県神戸市）

(株) Bio Laboが、このユーグレナ Kishu株を食品原料として規格化及び製造を開始

→ 7月から、グループ会社である株式会社G Eウェルネスから、食品原料として販売

<成果2>



低いエネルギーの光を高いエネルギーの光に変換する「光アップコンバージョンフィルム」を開発！

<将来的に利用が期待される場所>

• 太陽電池の効率向上



〔フィルムを貼る
ことにより、
発電効率を向上〕

• 窓用の省エネフィルム



• 紙幣等の偽造防止加工



外部機関との連携強化（橋渡し機能の強化）

県と産総研*1との間で連携協定を締結（平成29年2月14日）



和歌山県 産総研
仁坂 知事 中鉢 理事長

<連携の内容>

- (1) 共同技術開発・研究協力及びその成果等による産業振興
- (2) 県内企業等への技術開発支援
- (3) ネットワーク形成・人材育成及び人材交流
- (4) 情報発信・成果普及
- (5) 施設・設備の相互利用
- (6) その他必要と認められる事項

*1：産総研：国立研究開発法人産業技術総合研究所

県と東大先端研*2との間で包括連携協定を締結（平成31年3月15日）



和歌山県 東大先端研
仁坂 知事 神崎 センター長

<連携の内容>

- (1) 和歌山県における産業イノベーション創出支援
- (2) 地域特性を生かしたまちづくり・地域づくり
- (3) 教育開発・人材育成
- (4) その他、本協定の目的を達成するために必要と認める事項

*2：東大先端研：東京大学 先端科学技術研究センター

幅広い分野を網羅する最先端研究機関へと橋渡しを行い、
県内企業に対する迅速な開発支援を実現！